

## 2026 年 6 月 26 日 山梨県東部・富士五湖の地震の評価

- 6 月 26 日 22 時 28 分に山梨県東部・富士五湖の深さ約 20 km でマグニチュード (M)5.6 (暫定値) の地震が発生した。この地震により山梨県で最大震度 6 弱を観測し、負傷者が出るなどの被害を生じた。
- この地震の発震機構は北西—南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。
- G N S S 観測の結果によると、今回の地震に伴う有意な地殻変動は観測されていない。
- 今回の地震活動は、6 月 27 日 12 時までに最大震度 1 以上を観測した地震が 5 回発生するなど、継続している。
- 今回の地震活動域の周辺では、1983 年 8 月 8 日に M6.0 の地震が発生するなど、M4.0 以上の地震が時々発生している。また、過去に M4～5 程度の地震が連続した事例があり、2012 年 1 月 28 日 07 時 39 分に M4.9 の地震 (最大震度 4) が発生した直後の同日 07 時 43 分に M5.4 の地震 (最大震度 5 弱) が発生し、また、2021 年 12 月 3 日 02 時 17 分に M4.1 の地震 (最大震度 4) が発生した直後の同日 06 時 37 分に M4.8 の地震 (最大震度 5 弱) が発生するなどした。
- 今回の地震活動は、フィリピン海プレートが陸のプレートに衝突することに起因すると考えられる。
- 過去の一般的な事例では、大地震発生後に同程度の地震が発生した割合は 1～2 割あることから、揺れの強かった地域では、地震発生から 1 週間程度、最大震度 6 弱程度の地震に注意が必要である。特に地震発生から 2～3 日程度は、強い揺れをもたらす地震が発生することが多くある。

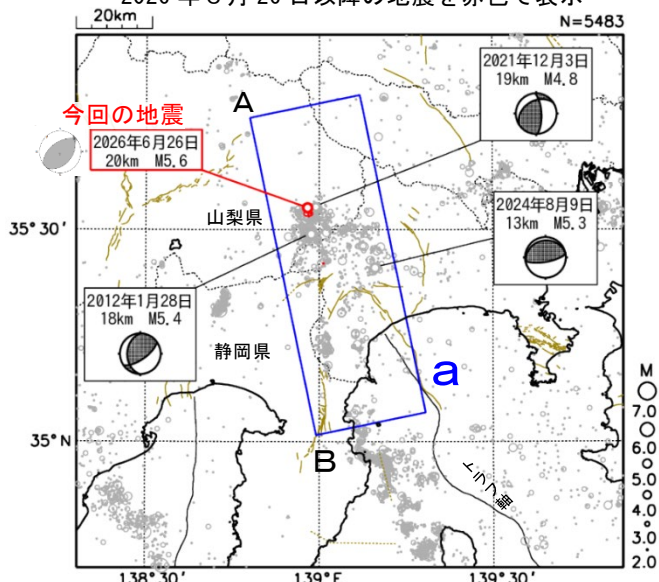
注：G N S S とは、G P S をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。

# 6月26日 山梨県東部・富士五湖の地震

震央分布図

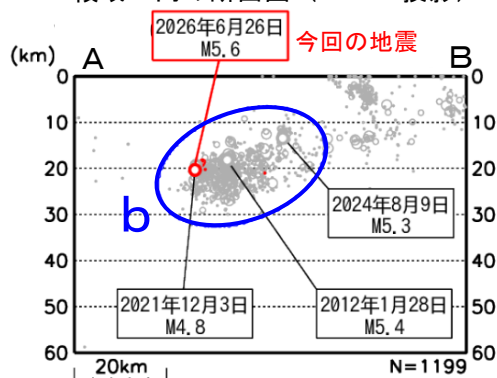
(1997年10月1日～2026年6月27日07時00分、  
深さ0～60km、 $M \geq 2.0$ )

速報値を含む、図中の発震機構はCMT解  
2026年6月26日以降の地震を赤色で表示



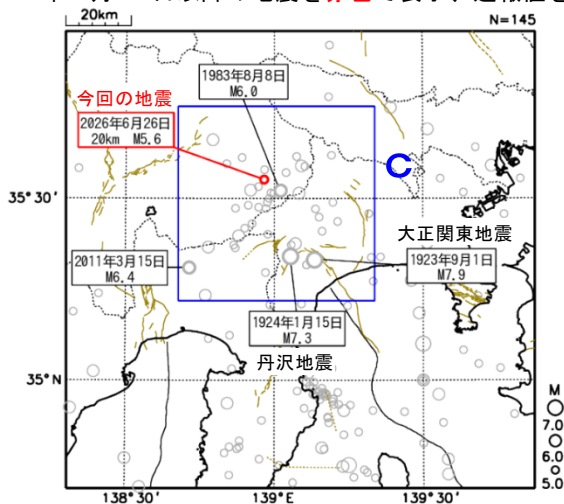
震央分布図中の茶色線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

領域a内の断面図（A-B投影）



震央分布図

(1919年1月1日～2026年6月27日07時00分、  
深さ0～60km、 $M \geq 5.0$ )  
2026年6月26日以降の地震を赤色で表示、速報値を含む



2026年6月26日22時28分に山梨県東部・富士五湖の深さ20kmでM5.6の地震が発生し、山梨県富士河口湖町で震度6弱を観測したほか、東北地方から中国地方にかけて震度5強～1を観測した。また、関東地方及び静岡県で長周期地震動階級1を観測した。

気象庁はこの地震に対して、最初の地震波の検知から6.6秒後の22時29分09.4秒に緊急地震速報（警報）を発表した。

この地震の発震機構（CMT解）は、北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。今回の地震の発生後、27日12時までには震度1以上を観測した地震が5回（震度6弱：1回、震度3：1回、震度1：3回）発生した。（注1）

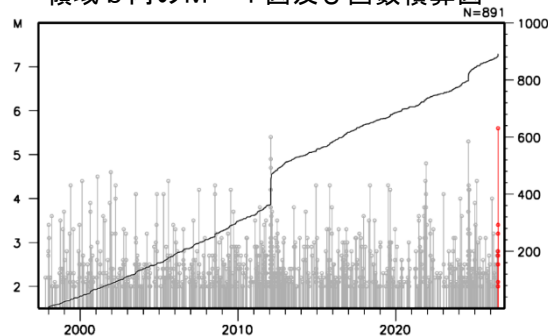
今回の地震により、負傷者10人などの被害が生じた（2026年6月27日06時00分現在、総務省消防庁による）。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M4.0以上の地震が時々発生している。2012年1月28日には深さ18kmでM5.4の地震（最大震度5弱）が、2021年12月3日には深さ19kmでM4.8の地震（最大震度5弱）が、さらに、2024年8月9日には深さ13kmでM5.3の地震（最大震度5弱）が発生した。

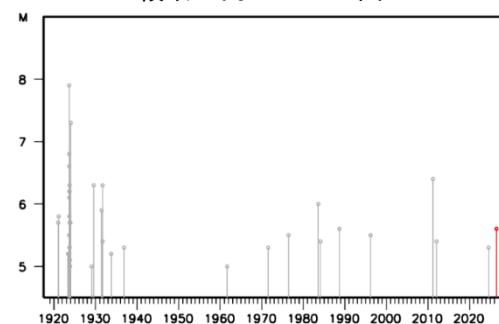
1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、大正関東地震（1923年）後10年程度はM6.0以上の地震が複数発生しており、それ以降では1983年8月8日に発生したM6.0の地震（最大震度4）、及び今回の地震より南西側で、2011年3月15日にM6.4の地震（最大震度6強）が発生している。

（注1）震度1以上を観測した地震の回数は、後日の調査で変更する可能性がある

領域b内のM-T図及び回数積算図

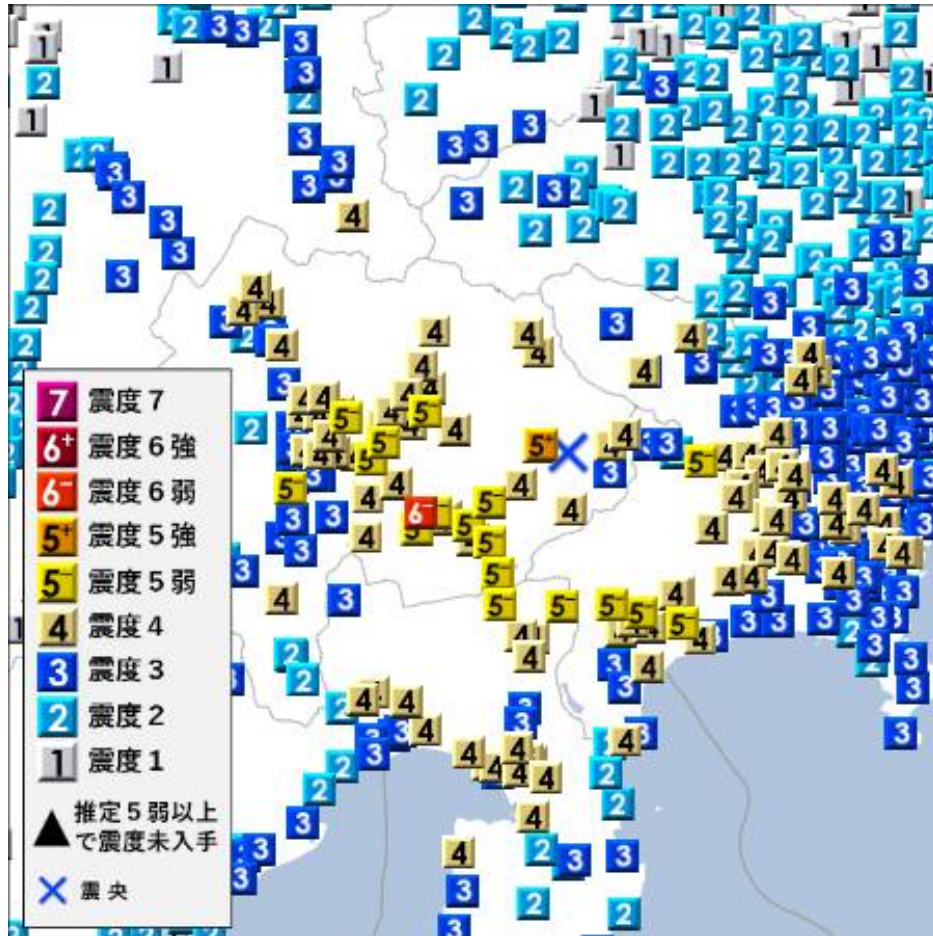


領域c内のM-T図



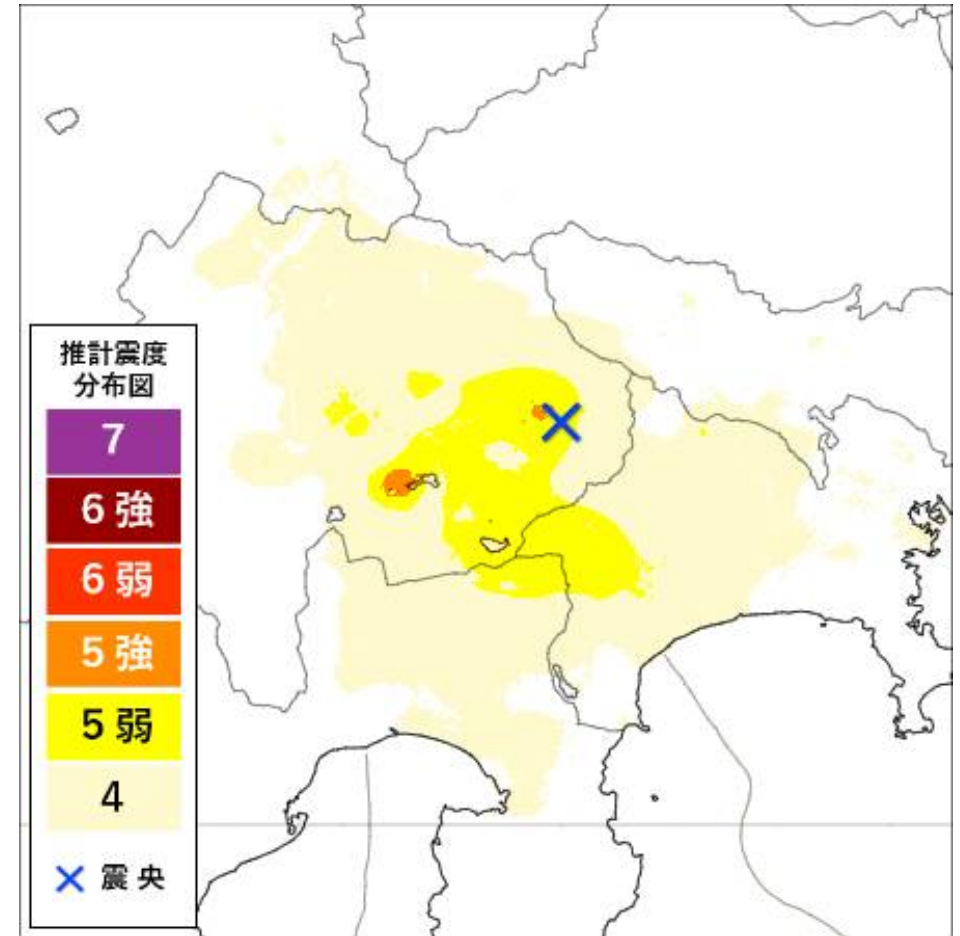
# 震度分布図・推計震度分布図

【各観測点の震度】



6月26日22時41分発表

推計震度分布図



※留意事項は以下リンクからご確認ください。

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

地震情報:[https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake\\_map](https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake_map)

推計震度分布図:[https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated\\_intensity\\_map](https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map)

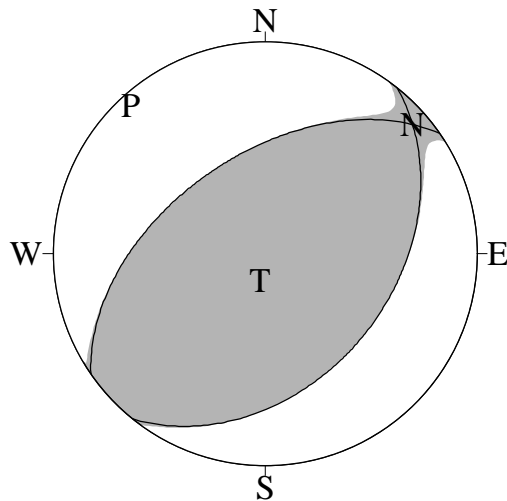
# 発震機構解

06262228

北西 - 南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

[CMT解]

Mw=5.3



下半球等積投影法で描画

P：圧力軸の方向

T：張力軸の方向

セントロイドの位置

北緯 35度24分

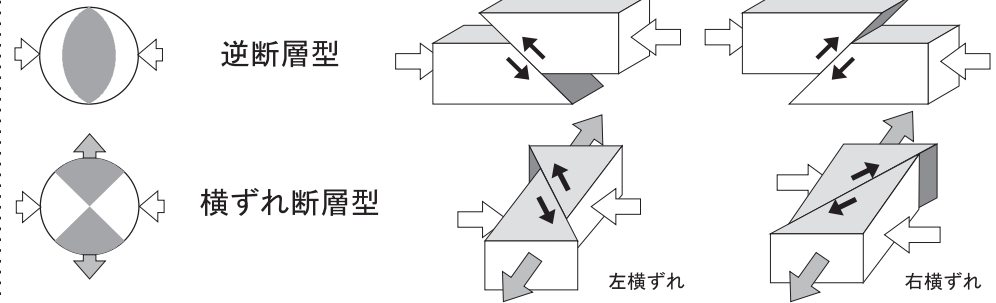
東経 138度58分

深さ 約30km

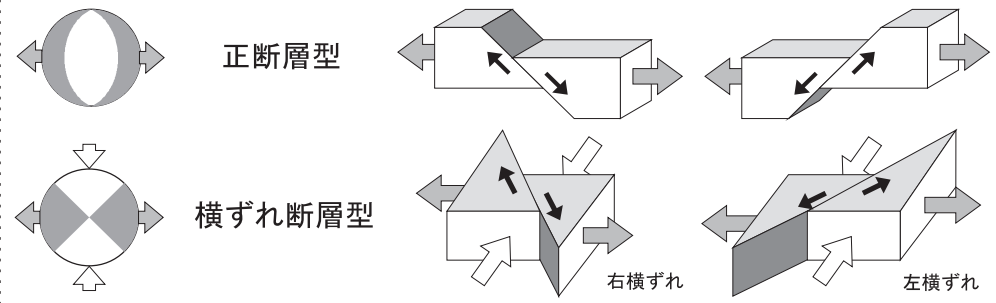
セントロイドの位置とは、地震の断層運動を1点で代表させた場合の位置。

発震機構解 [CMT解] について

圧力軸に注目した場合の例



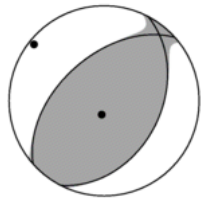
張力軸に注目した場合の例



⇒ ⇐ 圧力 (押し力)      ⇐ ⇒ 張力 (引く力)      ⇄ 断層がずれる方向

気象庁作成

# 2026年6月26日山梨県東部・富士五湖の地震 (F-netによるメカニズム解)



Mw = 5.3  
 Mo [Nm] = 1.10e+17  
 NP1: ( 27, 40, 74)  
 NP2: (228, 52, 103)  
 Var. Red = 83.85  
 Percent DC = 93  
 Percent CLVD = 7  
 Variance = 4.69e-08  
 RES/Pdc. = 5.06e-10

— Obs.  
 ..... Syn.

2026/06/26 07:30 (Mw 5.3, 深さ29km, 暫定解)  
 北西-南東圧縮の逆断層

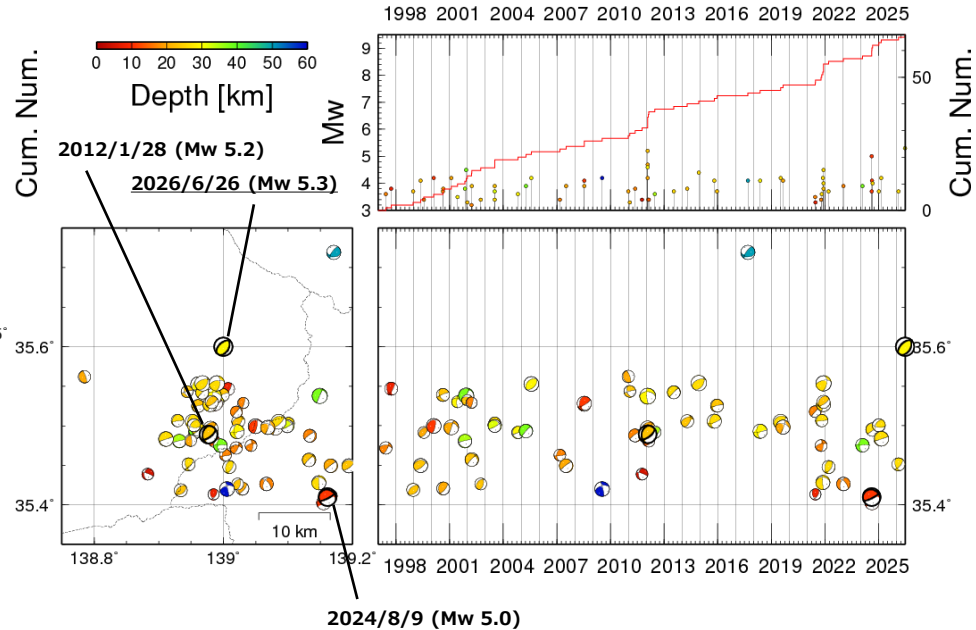
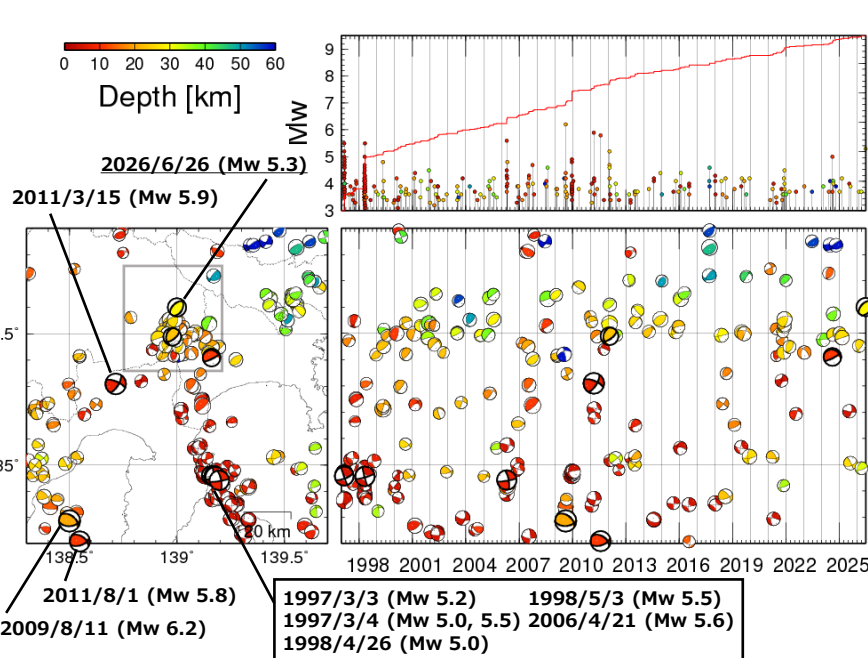
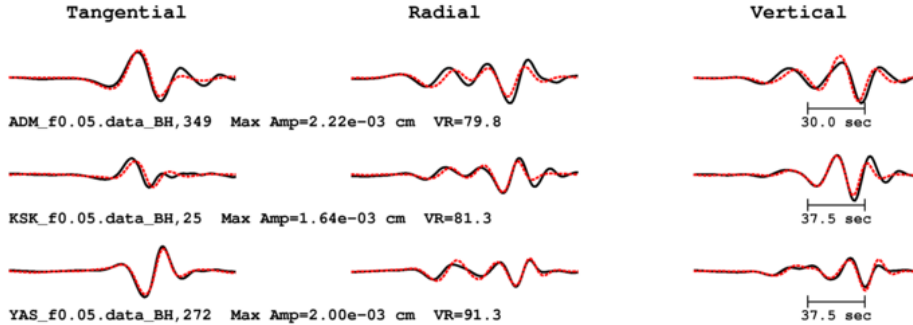


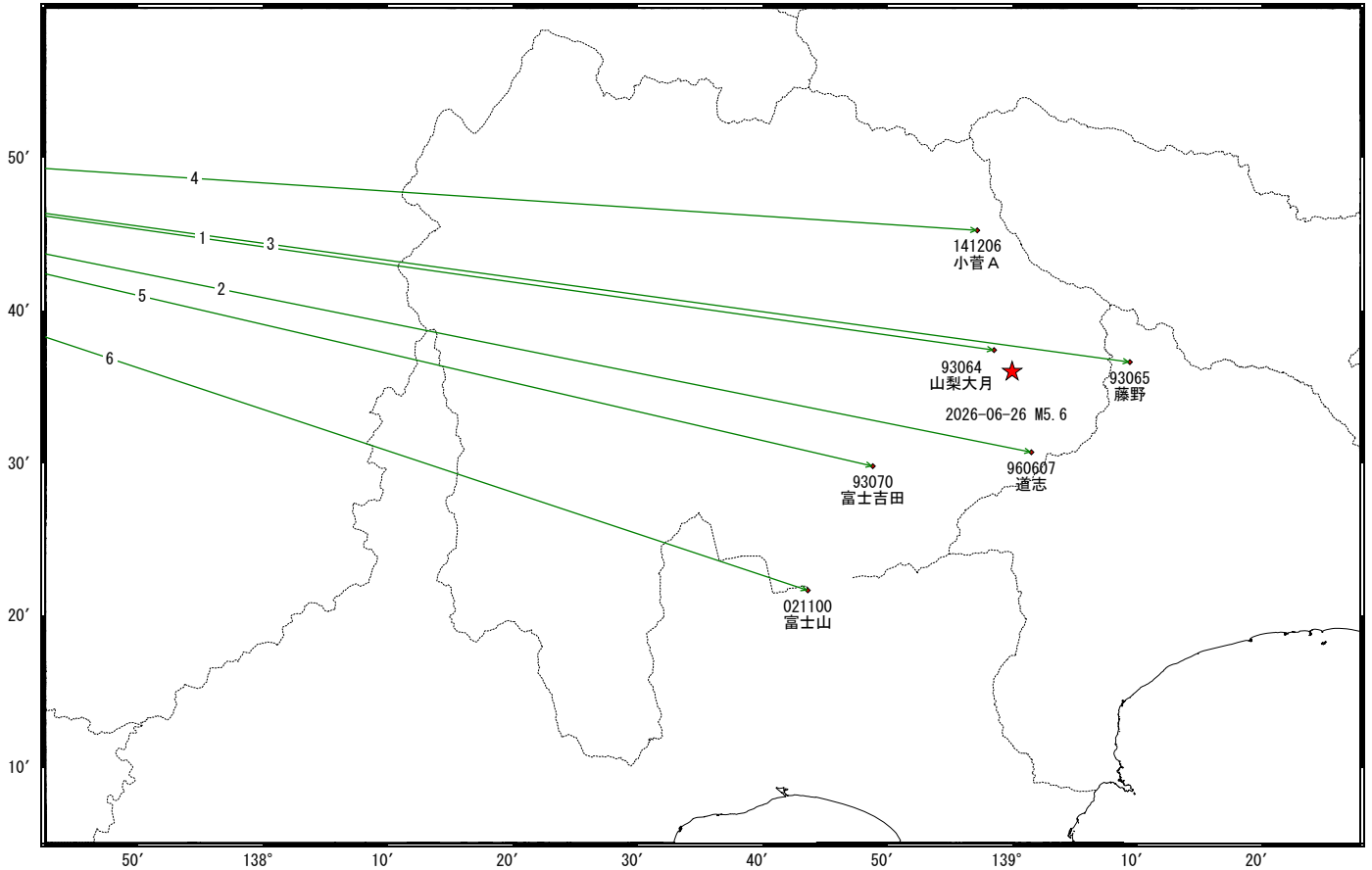
図1 F-netモーメントテンソル解カタログによる1997年以降の周辺の地震活動(深さ60km以浅)。Mw 5.0以上の地震を太線で示す。

図2 図1のうち灰色枠内の地震。

# 山梨県東部・富士五湖の地震(6月26日 M5.6)前後の観測データ(暫定)

この地震に伴う顕著な地殻変動は見られない。

## 基線図

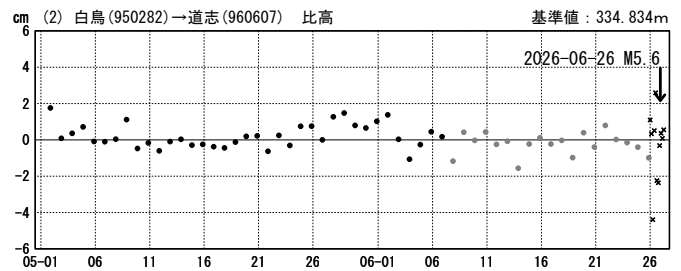
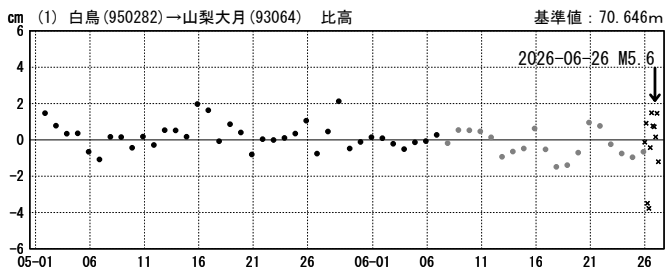
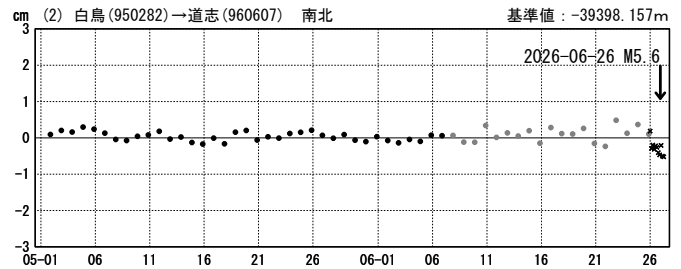
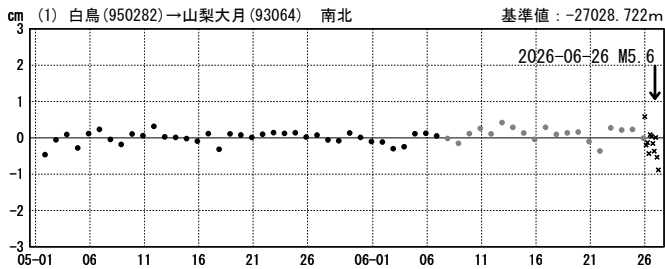
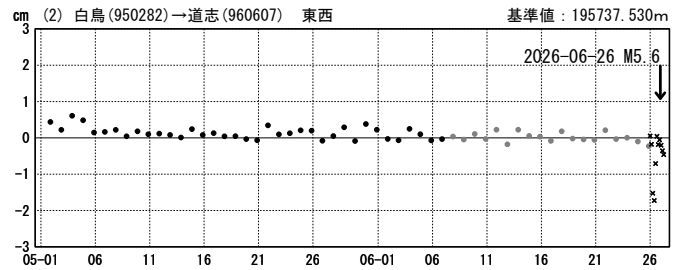
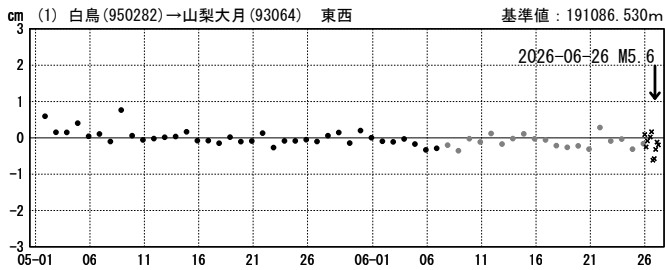


★震央  
 ☆固定局: 白鳥 (950282) (岐阜県)

## 成分変化グラフ

期間: 2026-05-01~2026-06-27 JST

期間: 2026-05-01~2026-06-27 JST

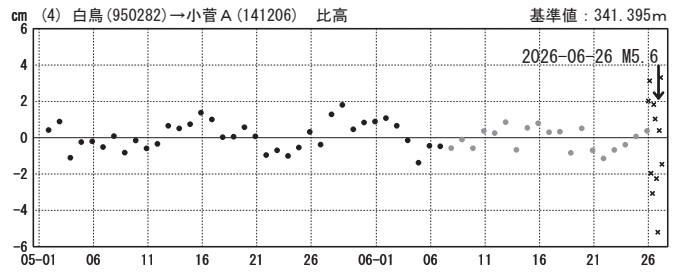
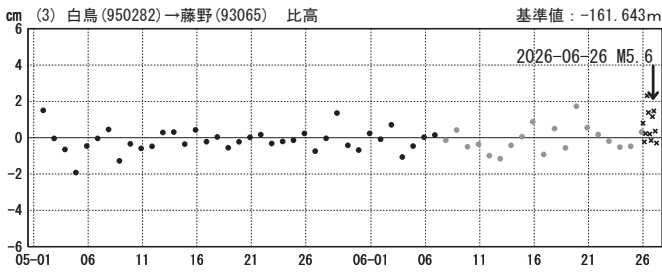
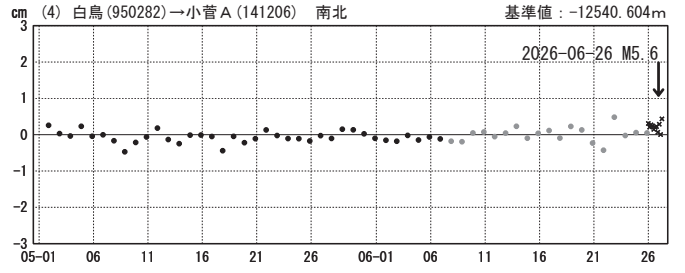
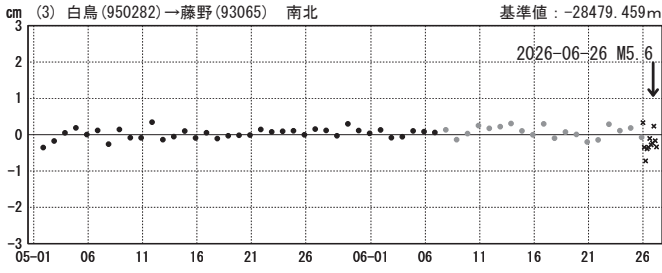
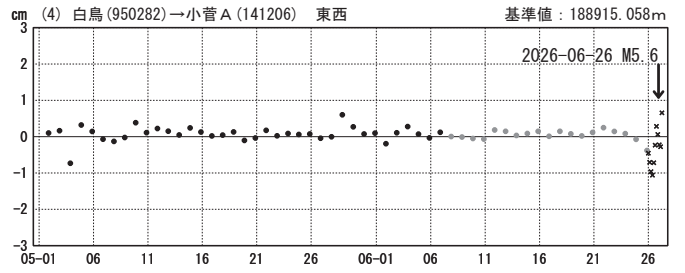
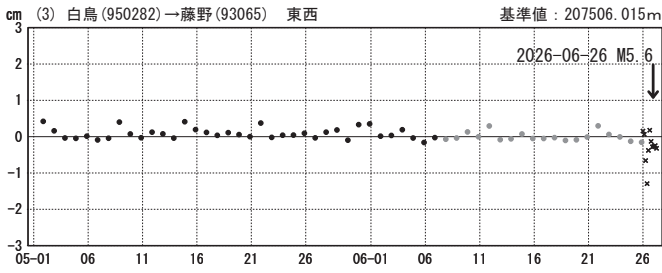


●---[F5.1:最終解]   ●---[R5.1:速報解]   ×---[Q5.1:迅速解]

# 成分変化グラフ

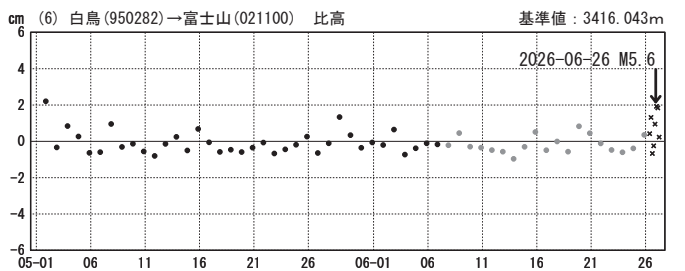
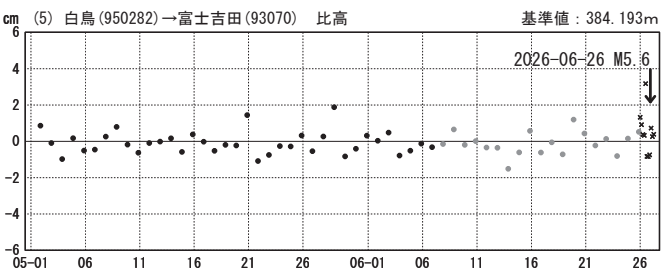
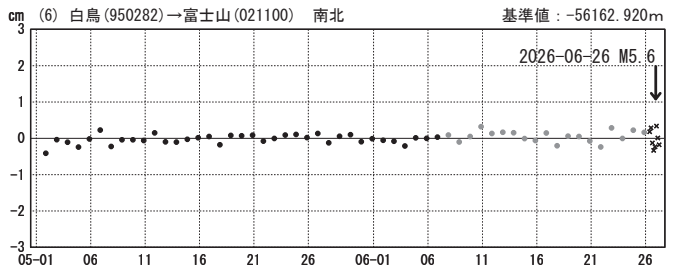
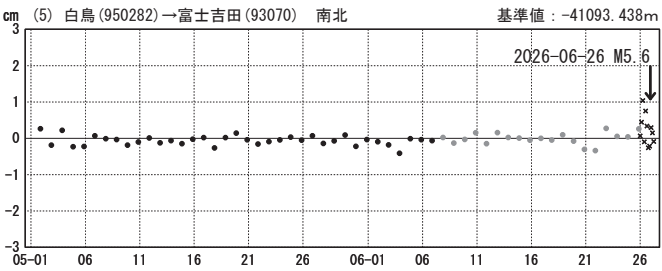
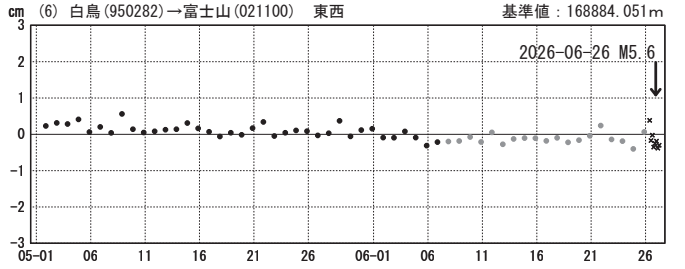
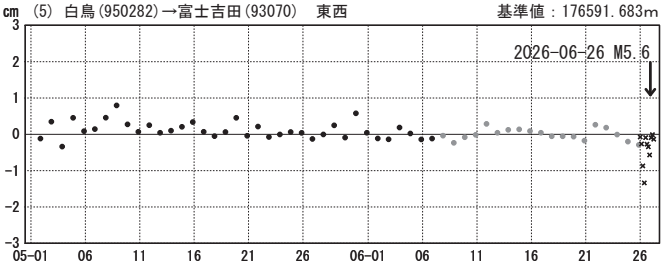
期間：2026-05-01～2026-06-27 JST

期間：2026-05-01～2026-06-27 JST



期間：2026-05-01～2026-06-27 JST

期間：2026-05-01～2026-06-27 JST



●---[F5.1:最終解]   ●---[R5.1:速報解]   ×---[Q5.1:迅速解]

## 「2026年6月26日山梨県東部・富士五湖」の最大震度別地震回数表

2026年6月26日22時～2026年6月27日12時 震度1以上

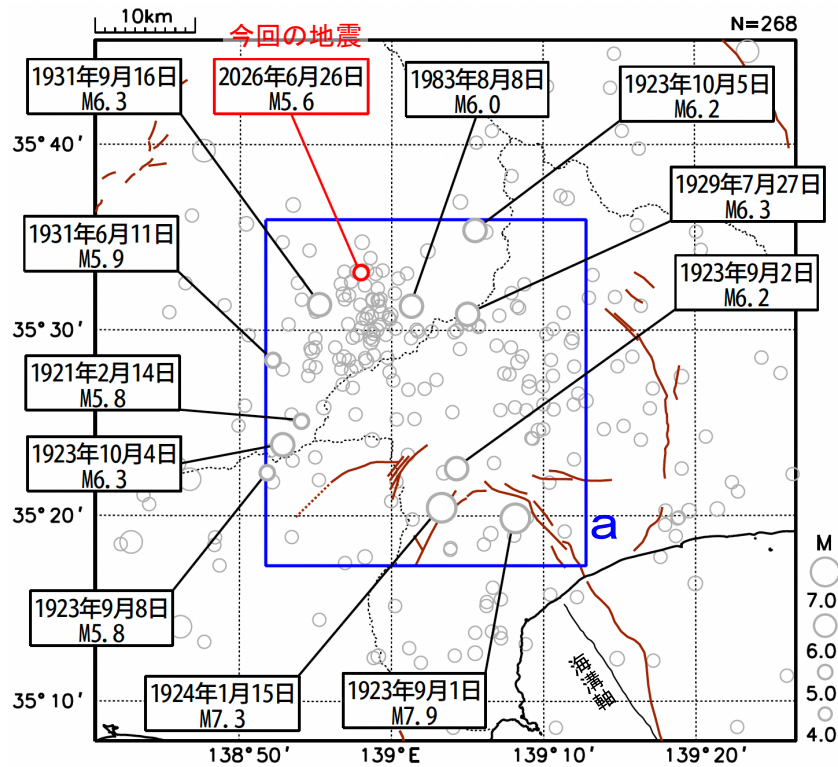
(注)以下のデータは速報値です。調査により変更される場合があります。

時間別	最大震度別回数										震度1以上を観測した回数		震度4以上を観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計	回数	累計		
6/26 22時-23時	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	
23時-24時	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	1	
6/27 00時-01時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	1	
01時-02時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	
02時-03時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	
03時-04時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	
04時-05時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	
05時-06時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	
06時-07時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	
07時-08時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	
08時-09時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	
09時-10時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	
10時-11時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	
11時-12時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	0	1	
総計	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	-	5	-	1	

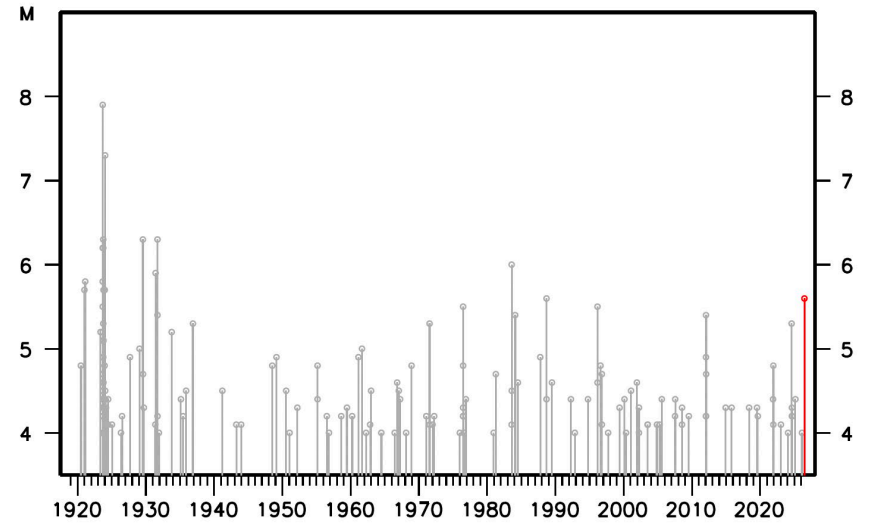
# 6月26日 山梨県東部・富士五湖の地震

(1919年1月1日～2026年6月26日、深さ0～60km、 $M \geq 4.0$ )  
 2026年6月26日22時28分以降の地震を赤色で表示

震央分布図



領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



※2026年6月26日以降の震源データは未精査を含む。

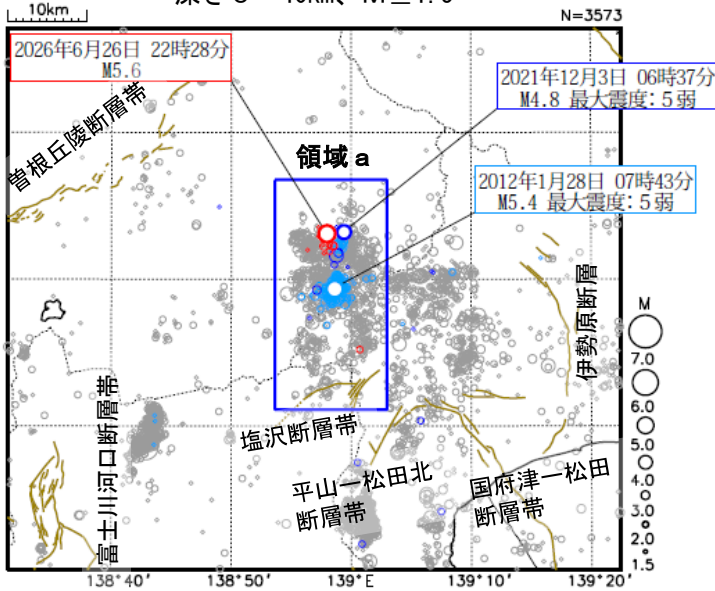
※震央分布図中の茶色線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

# 山梨県東部・富士五湖の地震活動比較（30日間）

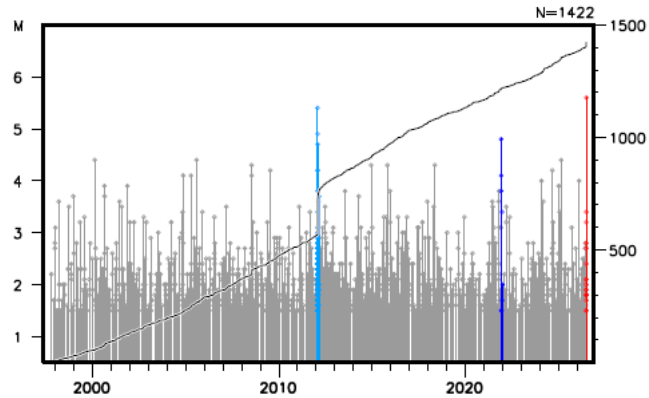
（過去の活動状況との比較、M1.5以上、30日間）

## 震央分布図

1997年10月1日～2026年6月27日07時  
深さ0～40km、M $\geq$ 1.5



## 領域 a 内の地震活動経過図及び回数積算図



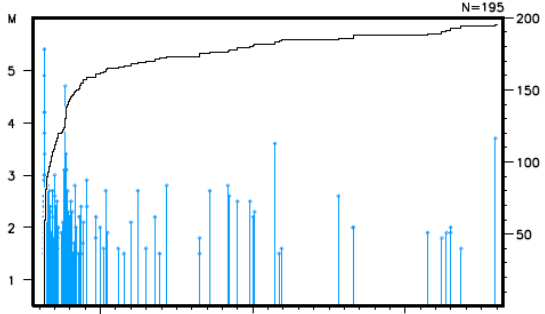
図中の茶色の線は地震調査研究推進本部の  
長期評価による活断層を示す

- 2012年1月28日～2012年2月26日：水色
- 2021年12月3日～2022年1月1日：青色
- 2026年6月26日～：赤色
- 上記期間以外：灰色

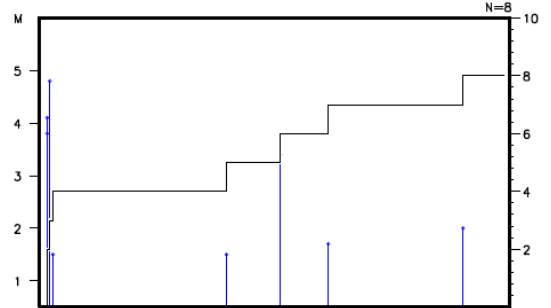
※この資料には速報値が含まれており、後日の調査で変更することがある。

## 領域 a 内の期間別（各30日間）の地震活動経過図及び回数積算図

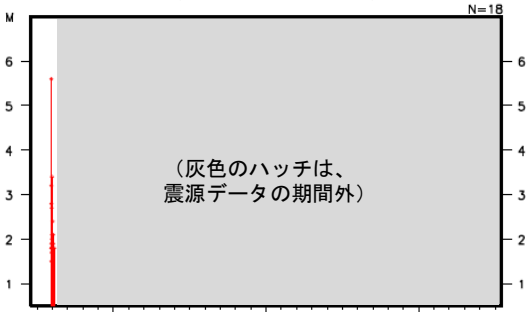
2012年1月28日～2012年2月26日



2021年12月3日～2022年1月1日



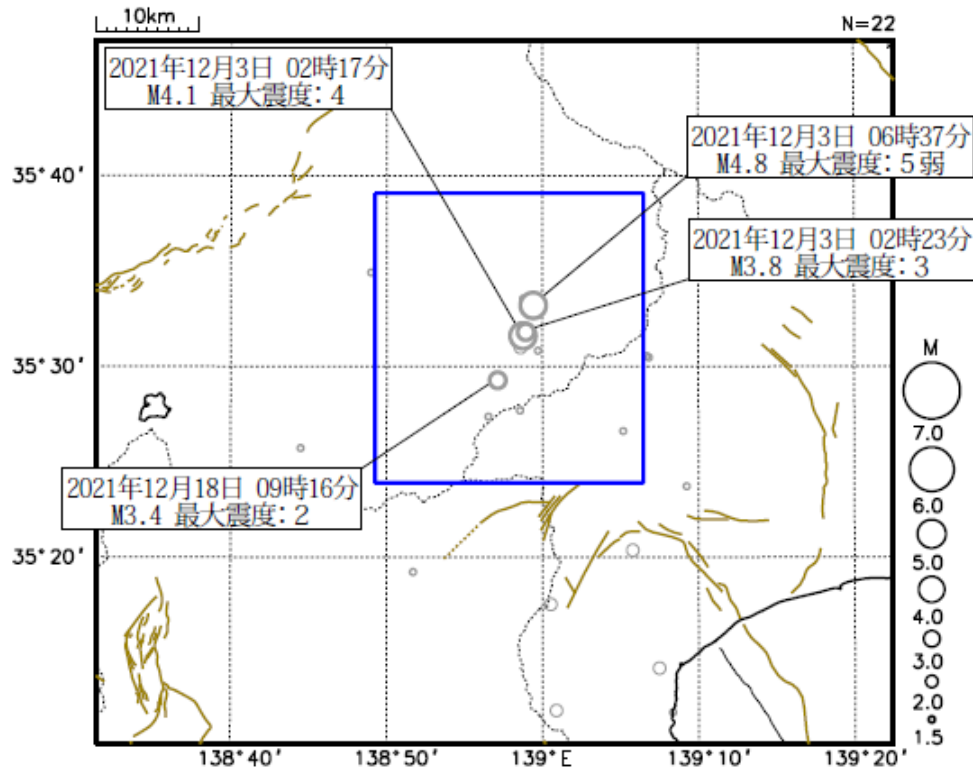
2026年6月26日～2026年7月25日



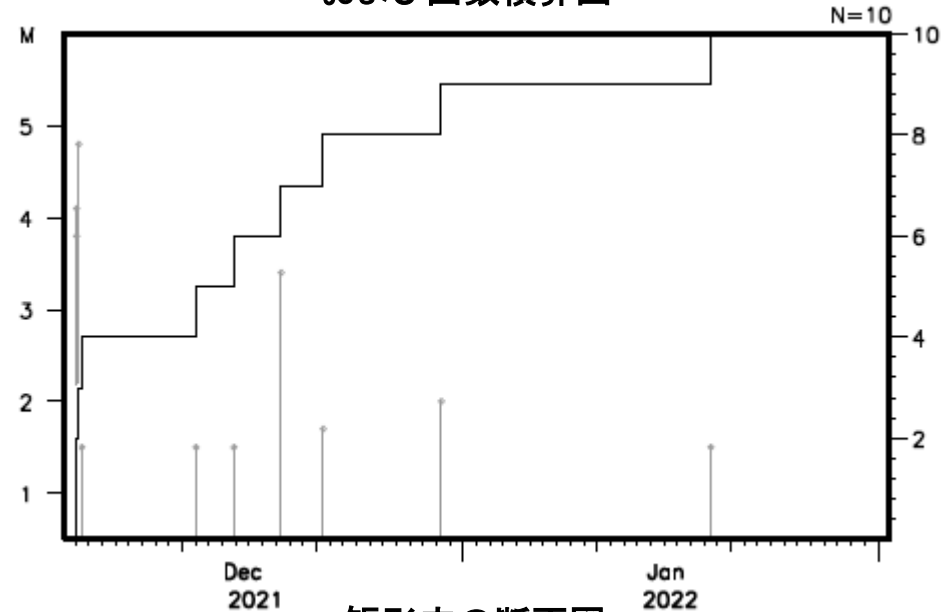
（灰色のハッチは、  
震源データの期間外）

# 2021年12月3日の地震

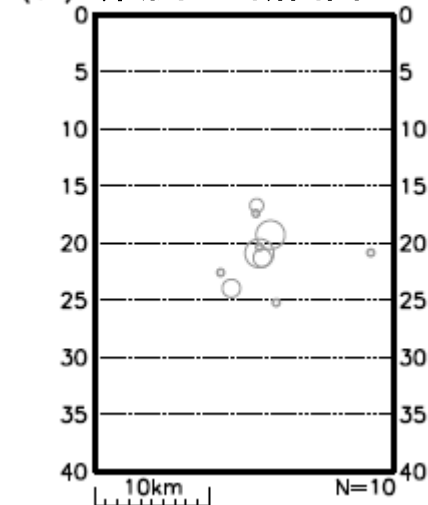
震央分布図  
(2021年12月3日～2022年1月31日、  
深さ0～40km、M1.5以上)



矩形内の地震活動経過  
および回数積算図

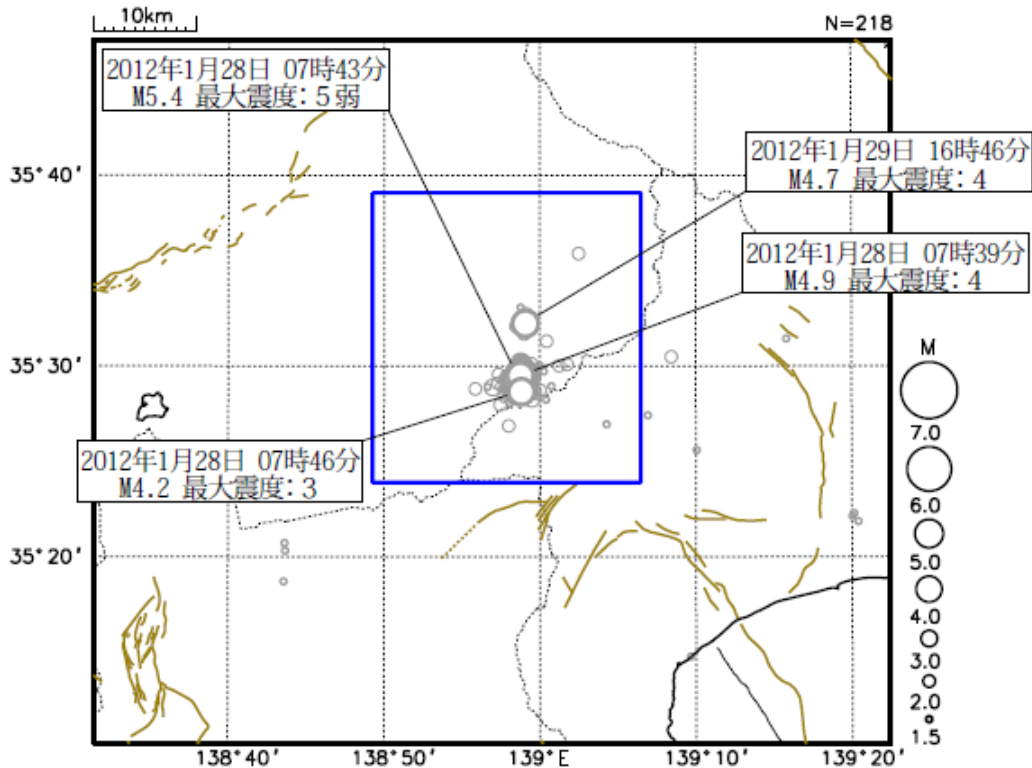


矩形内の断面図

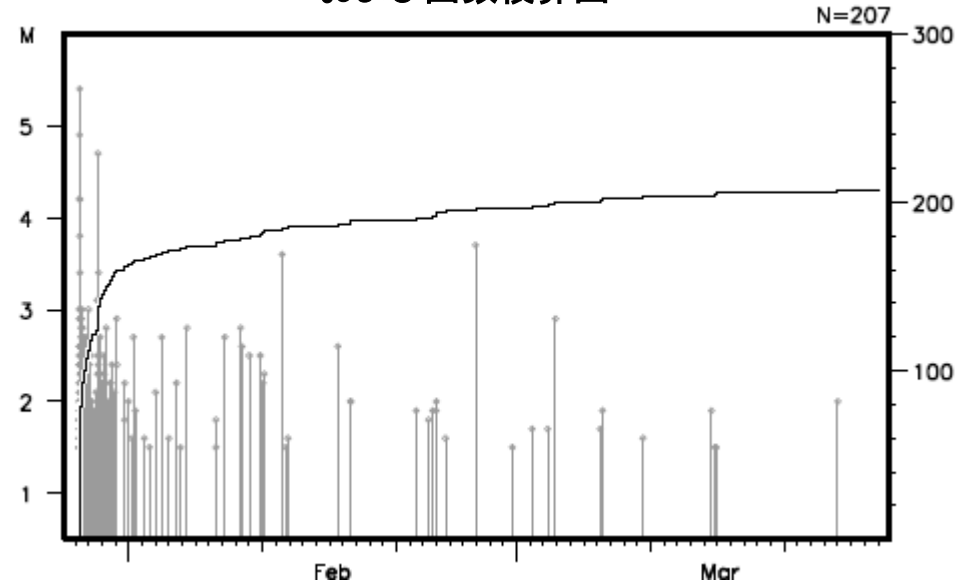


# 2012年1月28日の地震

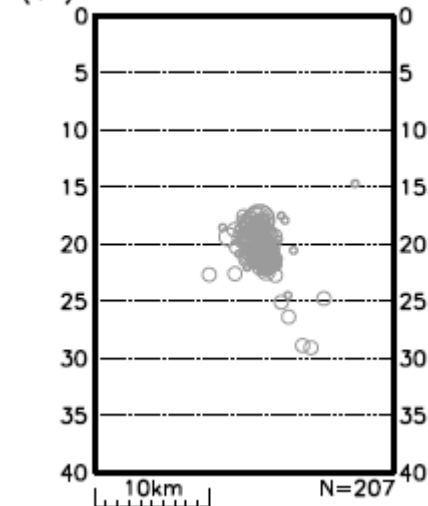
震央分布図  
(2012年1月28日～2012年3月27日、  
深さ0～40km、M1.5以上)



矩形内の地震活動経過  
および回数積算図

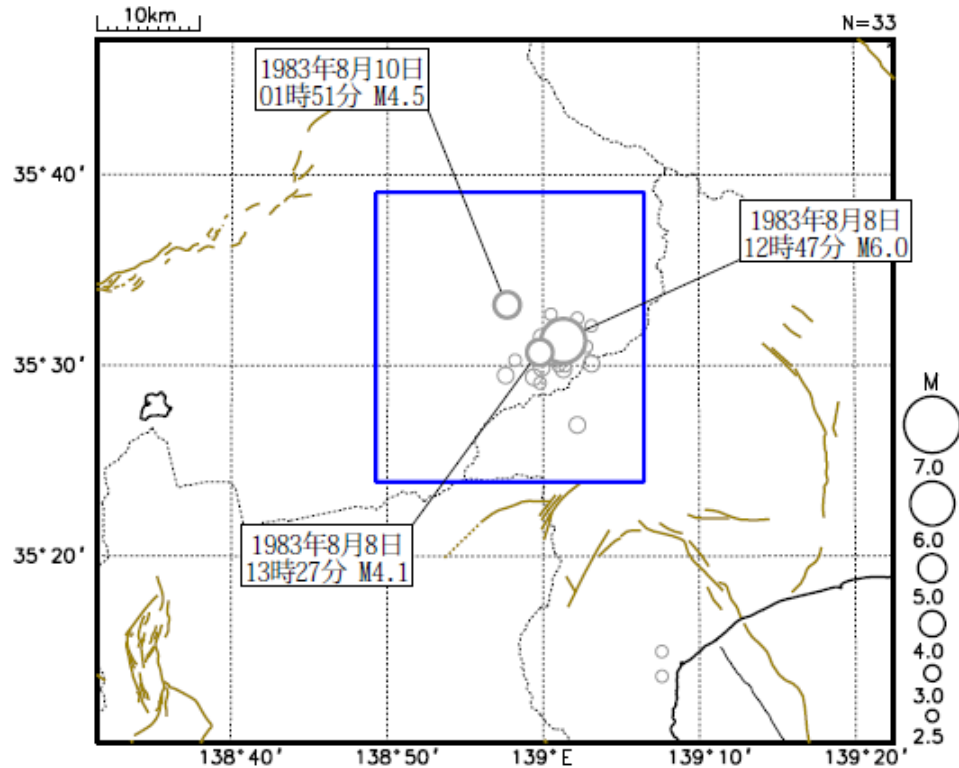


(km) 矩形内の断面図



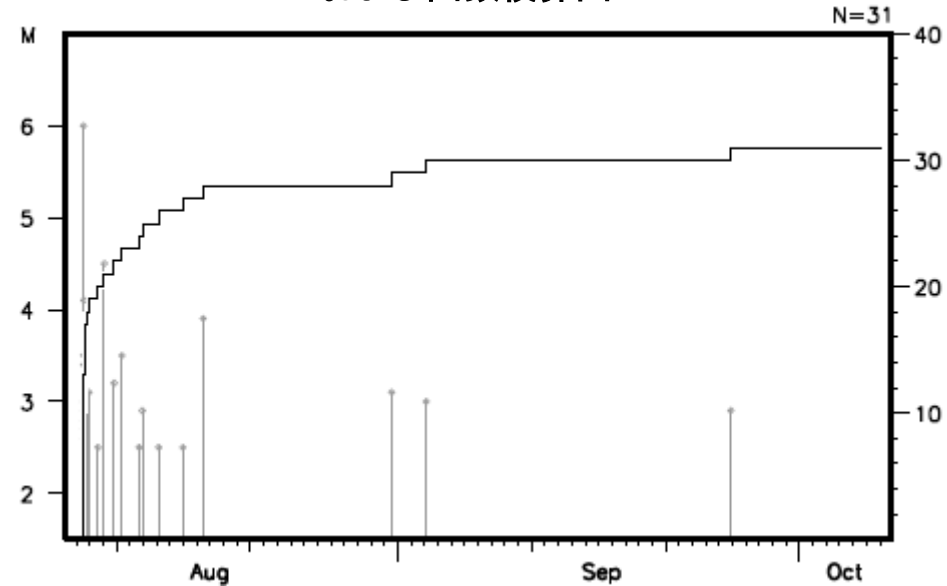
# 1983年8月8日の地震

震央分布図  
(1983年8月8日～1983年10月6日、  
深さ0～40km、M2.5以上)

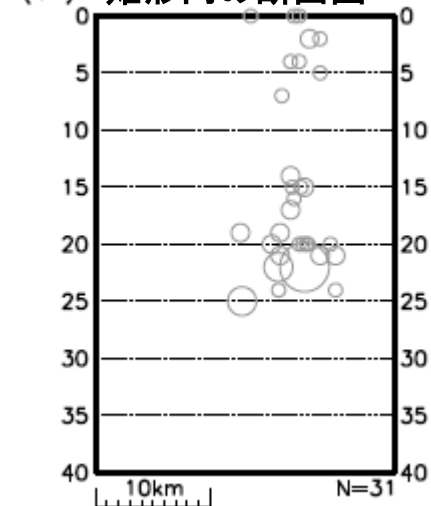


図中の茶色の線は地震調査研究推進本部の  
長期評価による活断層を示す

矩形内の地震活動経過  
および回数積算図



(km) 矩形内の断面図



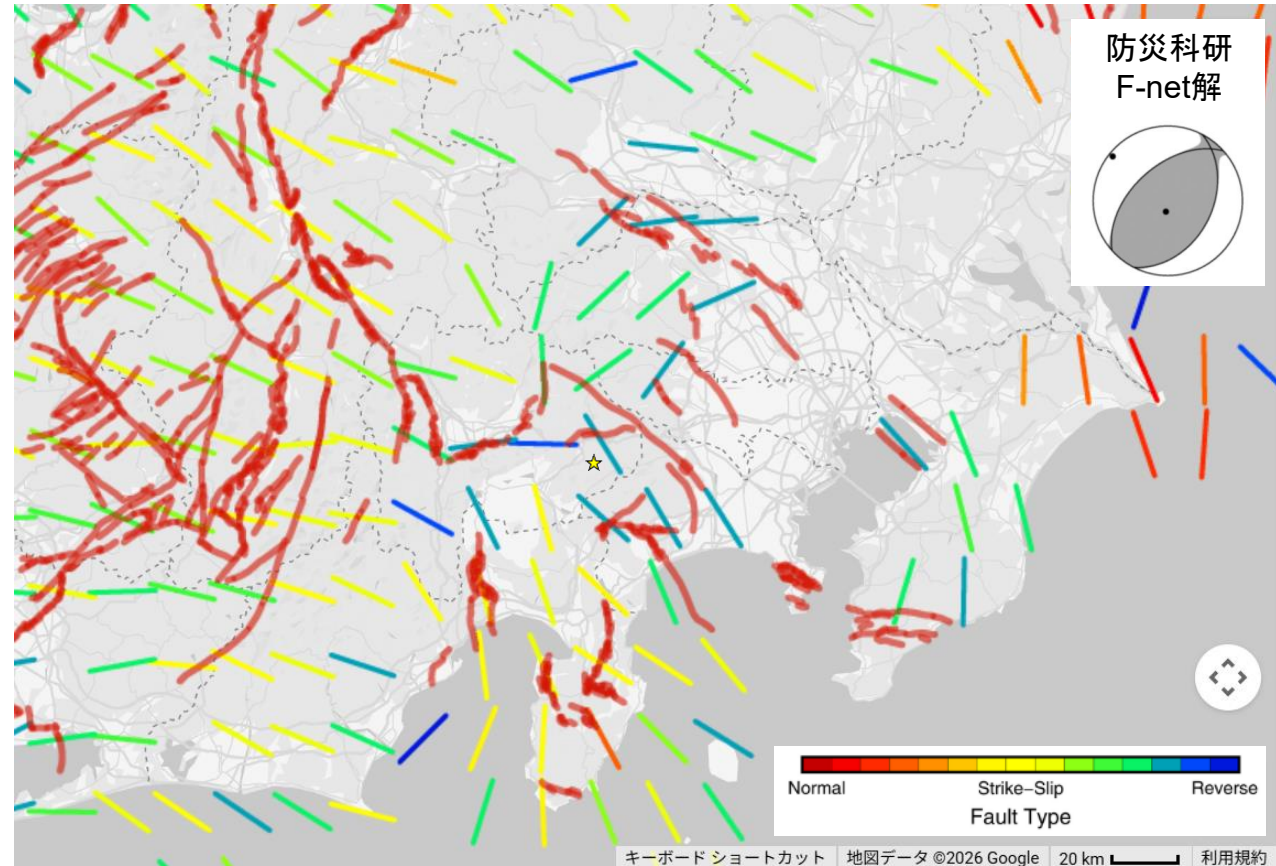
# 山梨県東部・富士五湖の地震の周辺の応力場

## $S_{Hmax}$ 方位と断層タイプ

・当該地域は、フィリピン海プレートの沈み込みに加え、伊豆・小笠原弧と本州弧の衝突が重なり、応力場がやや複雑になっている。

・圧縮軸の方位は、伊豆半島周辺では南北～北西―南東を示すが、山梨県北部付近から方位が回転するように変化する。

・本震は、このうち北西―南東の圧縮軸を持つ逆断層場で発生しており、本震のメカニズム解と調和的である。



産総研地殻応力場データベースに基づく。

Uchide et al. (2022)による深さ20 km 以浅の応力場データを表示。

黄色の星はHi-net自動震源による本震の震央。右上に本震のF-net解を示す。